

令和4年度 第2回安城市地域福祉計画策定協議会 議事録

【日 時】

令和5年3月24日（金）午前9時30分～12時00分

【場 所】

安城市役所本庁舎3階 第10会議室

【出席者】

委員：神谷明文会長、杉浦正之委員、野上三香子委員、北川弘巳委員、杉浦和彦委員、杉浦幹男委員、都築文明委員、松岡万里子委員、小久保充委員、山崎瑞穂委員、加藤早苗委員、熊澤里佳委員

助言者：長岩嘉文先生（日本福祉大学中央福祉専門学校校長）

事務局：原田淳一郎（福祉部長）、近藤俊也（福祉部次長）、細井紀世彦（社会福祉課長）

オブザーバー：早川孝一（社会福祉協議会事務局長）、杉本修（社会福祉協議会総務課長）、藤倉正生（社会福祉協議会地域福祉課長）、弓場愛美（社会福祉協議会地域福祉課地域福祉係）、杉浦一成（社会福祉協議会地域福祉課地域福祉係）

コンサルタント：加藤栄司（地域問題研究所）

1. あいさつ

神谷会長

- ・本日はお忙しい中、当協議会にご出席いただき誠にありがとうございます。
- ・地域福祉計画について協議するのが本協議会の役割ですが、改めて地域福祉計画の位置づけについて確認しておきたいと思います。
- ・それでは、第4次地域福祉計画の冊子のp5の図をご覧ください。地域福祉計画は、本市の最上位計画である安城市総合計画を地域福祉の観点から実現していくための基本理念や方策を定め、様々な主体が相互に協力して地域福祉を推進するための計画です。
- ・地域福祉計画以外にあんジョイプランや障害者福祉計画といった高齢者や障害のある人、子どもなどを対象とした様々な福祉関連計画があります。これらの計画はそれぞれの法律に基づいて策定される計画ですが、地域福祉計画はこれらを分野横断的につないでいくための計画であります。地域福祉計画の策定は努力義務ですが、安城市では早くから地域福祉計画を策定して総合的な観点から福祉を推進してきました。
- ・このような位置づけの計画についてご協議していただくのが本協議会の役割であることをご理解の上、それぞれの立場からご意見をいただければありがたいと思います。

2. 新委員の紹介

事務局より安城市民生委員・児童委員協議会の杉浦正之委員が新たに協議会委員に加わったことを紹介

3. 議題

(1) 市民を対象にしたアンケートの結果について

(2) 事業所を対象にしたアンケート結果について

事務局が、資料1に基づき、「市民アンケート調査」と「事業所アンケート調査」の結果概要について、パワーポイントで説明。

【質疑応答】

神谷会長

- ・今のご説明に対してご質問・ご意見がございましたら承ります。

小久保委員

- ・質問というか感想の部分も多くなると思います。私は日頃、安城地域リハビリネットワークというリハビリ専門職の団体の代表をやっておりますが、コロナ禍で地域の方が地域の活動等に参加できていないという現状は、私自身も日頃感じているところと一致しています。
- ・その中でもコロナ禍で大事になっているのは社会的フレイルです。地域との交流が少なくなることによってフレイル状態に陥っていくものですが、我々の目に見えないところでフレイル状態が進行してしまっているのです。その地域の方々が、コロナ禍で地域の方々と交流が少なくなり閉じこもりがちになっている方々に声かけしていただいたりして、関係性をつくっていくことが改めて大事であると感じました。
- ・アンケート結果では、地域福祉活動に参加したいという人が多いことが明らかになったので、そうした方々を巻き込みながら、町内福祉委員会の見守り活動などを通して、フレイル問題について地域で取り組んでいくことが大切であると感じました。

加藤委員

- ・このアンケートですが、福祉ということで高齢者の方は関心があるとは思いますが、若い方はアンケートにはあまり回答していないように思われますが、年代ごとの回答割合はどれくらいなのでしょう。

事務局

- ・回答者数は全体で1,383人。20歳代以下は9.1%、30～39歳が11.9%、40～49歳が17.3%、50～59歳が18.9%、60～64歳が7.8%、65～69歳が8.1%、70～74歳が10.6%、75～79歳が7.4%、80歳以上が8.7%という結果です。65歳以上が34.8%ということでややその割合は高くなっていますが、ものすごく高齢者に偏っているという回答結果ではありませんでした。
- ・なお、アンケート調査報告書（案）の冊子のp3にグラフが掲載されています。今回は多くの若い方々に回答していただけるようWebでも回答できるような工夫をしました。その結果、20歳代の63.5%、30歳代の52.7%がWebで回答しており、全体的に年代的なバランスがとれています。

加藤委員

- ・資料1のp14のグラフで示されている通り、引きこもりやニート、ヤングケアラーが実人数にすると相当の数があることがアンケート結果から顕在化されたことは良かったと思います。

杉浦幹男委員

- ・説明の冒頭で重層的支援体制整備事業についてもふれていましたが、この具体的なアクションプランがありましたらお教え願えませんでしょうか。

事務局

- ・重層的支援体制整備事業（以下、重層）につきましては、社会福祉協議会の職員も加わりながら、分科会で安城市における体制づくりについて検討しているところです。
- ・また、先般も岡崎市や春日井市、東海市などの先行的に取り組んでいる自治体に視察に行き、安城市でどのような体制を構築していくべきなのか、研究を進めております。
- ・安城市の場合、地区社協があることが大きな強みですので、それを活かしながら地域包括支援センターと連携し、待ちの姿勢ではなく出の姿勢を大切にして、アウトリーチ等の相談支援の体制づくりを進めていくことなどが大切であると考えていますが、具体的にどのような内容で重層を進めていくかについてはこれから決めていくことになります。

熊澤委員

- ・アンケート結果については、想定内の結果という印象を持ちました。本日の議題はアンケート結果についてとなっていますが、これらのアンケート結果を鑑みて、本日の協議会ではアンケートの結果を聞くだけなのか、それとも何かアイデアの提案を出すところまでやっていくのでしょうか。それをお尋ねしたいと思います。
- ・私としては、どういうことをやっていけば、強めていけば問題の解決に至るのかについて皆さんと共有したいなと思います。
- ・今の時代、健康でありたいという想いが強いと思います。先ほど小久保委員が言われた社会的フレイルを含めて問題を解決するには情報提供がなされていけばよいのか、公共交通網の整備をしていけばよいのか、私は情報や交通網の整備を安城市がもっと支援していく、活性化していくことをすればすべての問題の解決の糸口になっていくのではないかと思います。
- ・何を安城市で強めていったらよいのか、活性化していったらよいのかを考えていってもらえるとよいと思います。

神谷会長

- ・事務局の方、いかがですか。

事務局

- ・本日の協議会では、アンケートの結果が一通りまとまったので、そのご報告をさせていただくことに主眼があります。このアンケート結果や委員の皆様方のご意見を踏まえて、事務局の方で計画の素案を作成し、それを来年度の策定協議会にお諮りさせていただきたいと思っております。

神谷会長

- ・先ほど杉浦委員の質問にもありました重層についてはなかなかわかりづらいです。地域丸ごと支え合いとか、ワンストップ型とか今まで言われてきたことはイメージしやすいのですが、重層とはそもそもどういうものなのかご説明いただけませんか。

事務局

- ・重層は、地域共生社会を実現していくための手段として新たに制度化され、令和3年度から

国が推進している事業です。大きく「相談支援」と「参加支援」、「地域づくり」の3つの事業で構成されています。

- ・第4次地域福祉計画で位置づけられている複雑かつ複合的な課題を抱える人のための“丸ごと相談体制の構築”が、今で言う重層にあたる部分です。安城市でも「相談支援」と「参加支援」、「地域づくり」の3つの事業に類する事業はこれまで実施してきましたが、重層として制度化される以前であったために、丸ごと相談体制の構築までには至っていないのが実情です。
- ・「第4次安城市地域福祉計画の推進施策・事業進捗状況評価のまとめ」という資料をご用意させていただいておりますが、そのp17にそのあたりのことは記してあります。
- ・なお、本日の策定協議会冒頭の会長ごあいさつの中で、改めて地域福祉計画の位置づけについて確認しましたが、地域福祉計画は市の行政計画です。しかしながら、安城市の場合は地域福祉活動計画を包含する形になっていますので、行政計画であると同時に社協の計画でもあります。
- ・それから、そもそも地域福祉は市や社協だけでは推進できるものではありません。ボランティアや福祉事業者、福祉関連団体、地域住民が相互に協力してこそ推進できる性格のものであります。したがって、地域福祉計画は、“地域住民による地域住民のための計画”である側面もあります。
- ・先ほど、情報や交通網などの整備を市がもっと力を入れるべきであるとの意見もありました。もちろん市が力を入れてやっていくべきことも多々ありますが、デイサービスを実施している事業者の送迎用自動車が空いている時間帯に地域住民がそれを借り受けて買い物支援の移送を行っているような町内福祉委員会も既にあります。このように、地域住民の支え合い活動や福祉事業者との連携によって、地域福祉的な課題を解決していくことも視野に入れ、地域福祉計画を策定していくことが求められます。
- ・このように“地域住民による地域住民のための計画”であるという観点も含めて、委員の皆様からは様々なご意見・ご提案をいただけるとありがたいです。

神谷会長

- ・言葉が色々と変わっていくからわかりにくいですね。丸ごと支え合いやワンストップ型といった言葉はやめて、これからは重層という言葉に一本化していくということであれば理解しやすいのですが、そういう理解でよいのでしょうか。

事務局

- ・重層は国がつくった事業名なのでこの言葉を使わざるを得ないのですが、安城市としてこれからは丸ごと相談体制という言葉を使用することもできますし、また重層の名称を新たに設定することもできますので、今後詰めていきたいと思っております。
- ・実際にこれまで民生委員や地域の方々に取り組んできたことが大きく変わるものではなく、どのように関係機関へつなげ、そのつなげた先でいかに連携を強化しながら全世代を対象とした相談支援をしていくか、その体制を構築していくかというのが、重層の趣旨となります。関係機関との連携関係の体制づくりについては、市として今後詰めていき、案を委員の皆さんに諮っていきたいと考えておりますので、今の段階では詳細まではお答えできない状況にあることをご理解いただきたいと思います。

- ・それから、本日アンケートを説明させていただいたのでこれを踏まえてこの場でご提案を色々いただいても構いません。ただ、地域福祉計画は先ほども話があがったように各個別計画を横串でつなげるという役割の計画ですので、地域福祉計画で書かれるような内容は方針的なものになり、その方針に基づき個別の事業を行っていくという流れになりますので、ご理解いただきたいと存じます。
- ・アンケート結果を踏まえてご意見・ご提案をいただければ、できるかできないかはともかくとして、受け止めて今後の参考にして参りたいのでご意見をお出しください。

事務局

- ・重層のイメージについて説明。

杉浦正之委員

- ・「アウトリーチ」とはどのような意味ですか。

事務局

- ・困った方が相談に来るのを待つというのではなくて、地域や困り事がある人のところに積極的に出向いて相談支援をすることです。
- ・専門用語については、できるだけ解説をつけるなど変わりやすくなるよう努めます。

熊澤委員

- ・重層については分かってきました。また、地域福祉計画が地域住民による地域住民のための支え合いの計画であるということも理解できました。
- ・まるっと支えるインフラ事業というものを考えていかななくてはならないと思いました。相談したけど市の方でインフラが整備できてなかったのが解決に結びつかないということになってしまわないでしょうか。
- ・情報が行き渡るようなシステムや交通網インフラの整備をしっかりと進めてからこそ、それを活用して創意工夫をして地域住民による地域住民のための支え合い助け合いをしようというアイデアに持っていくというのが理想かなと思いました。

事務局

- ・この場でいただいたご意見等は、すべてを地域福祉計画内で掲載していく内容ではないかも知れませんが、できる限りフィードバックしますし、市の最上位計画である安城市総合計画などもありますので、その中で反映させていかななくてはいけないご意見は反映させていくよう努めたいと思いますので、よろしくをお願いします。

事務局

- ・先ほど、地域住民のための地域住民による支え合いの計画が地域福祉計画と申し上げましたが、それこそが地域福祉計画の神髄であることは間違いないと思います。
- ・しかしながら、重層については、基本的には市や社協を中心に福祉関係機関が責任を持って検討し、構築していく行政計画的な性格があります。
- ・なので、市民一人ひとりにおいても重層という言葉を知っていただくことは大事ですが、事業の中身の細かいところまで知っていただく必要はありません。また、委員の皆様においても同様です。事務局の方で案を作成し、それに対してご意見を出していただく立場もありますから、ある程度のご理解は必要ですが、事業の詳細までを知っていただく必要はありません。

- ・ただ、事業を運用していく段階では、福祉関係団体の方々や町内福祉委員会をはじめとした多くの地域住民の方々に関わっていただく必要があります。8050 問題やネグレクト、生活困窮、障害など複合的な生活課題を抱えている個人や家庭への見守り・声掛けや制度の狭間で福祉サービス等にアクセスできない方々を専門機関につないでいただく役割を地域住民の方々に担っていただかないと、重層は機能しません。
- ・また、重層事業の「参加支援事業」や「地域づくり事業」は、地域社会にある様々な社会資源が不可欠な事業であり、その運用にあたっては、町内福祉委員会をはじめとした多くの地域住民に関わっていただくことが必要不可欠です。
- ・繰り返しになりますが、重層についての事業内容の詳細やその仕組みまでのご理解いただく必要がありません。重層という言葉は頭の片隅においていただく程度で構いません。
- ・ただ、社会、経済、環境の変化の中で、フリーターやニート、ひきこもりの増加と高齢化が相まって顕在化している 8050 問題、格差社会を背景に顕在化している生活困窮者問題や子どもの貧困問題、発達障害やその疑いのある子どもの増加、介護と育児に同時に直面する世帯（ダブルケアを抱える世帯）、ヤングケアラーの増加など、世代等を超えた複雑多岐な生活課題、制度の狭間にある地域福祉的な課題を抱えている人・世帯が増加しつつあることと、そうした状況に対して、世代や分野を越えて包括的に支援していく体制をつくり、地域住民などとの連携・協働によって運用していく事業が重層であることをご理解いただく必要はあろうかと思えます。

神谷会長

- ・重層の説明をいただきありがとうございました。重層、そして地域共生社会の実現を目指して、それに見合うような計画を策定していかななくてはならないという方向性を確認できたのではないかと思います。
- ・本日の協議会の議案は決議事項ではなく、報告事項ですので議題としてはこれで終了し、次の「4. その他」に参りたいと思います。事務局の方で説明をよろしくお願いします。

事務局

- ・委員の皆様からは様々なご意見をいただきまして、ありがとうございました。それでは、事務局の方から第4次地域福祉計画の進捗状況について説明させていただきます。

4. その他

(1) 第4次地域福祉計画の進捗状況について

事務局が、資料（第4次安城市地域福祉計画の推進施策・事業進捗状況評価のまとめ）に基づき説明。

松岡委員

- ・私の団体では8年にわたって移動支援を行っています。令和4年度には1,000件を超える移動支援サービスをボランティア10人体制で実施しました。国では自家用車を福祉的に活用して移動支援を行ってもよいという風になってはいますが、一般住民ではなかなか手が出せない状況にあります。
- ・また、あんくるバスの停留所まで行けない人、高層階に住んでいてそもそも家から外にでるのも大変な人もいます。あんくるバスやあんくるタクシーといった移動手段をハード面で整

備しても、こうした家から一人では出られない人をサポートする地域住民によるソフト面の支援もセットで考えていかななくては、高齢者等の移動の課題は解決しないのではないかと思います。

- ・安城市では、安城市地域公共交通計画を策定していますが、ハード面が中心で地域福祉計画とのつながりが弱いのではないかと感じます。

事務局

- ・地域公共交通計画はあんくるバスの本数や路線をどうするとか、そういうハード面がメインになる計画だと思います。ご指摘のとおり、地域住民との連携といったきめ細かなソフト面の対応が重要ですから、例えば、地域福祉計画でそのあたりの方向性を示して、あんジョイプランや障害者基本計画といった個別計画で細かい内容を位置づけていくことが現時点では考えられると思います。

熊澤委員

- ・私も松岡委員のように公共交通についてこだわりを持っています。私は子ども食堂に関わっていますが、移動手段がないことから本当に来てほしい子どもに来てもらえないという状況にあります。あんくるバスが充実すればこのような子どもも子ども食堂に来られるようになると思います。サロンやサタデースクールも同様かと思っています。
- ・それから、あんくるバスのバス停で荷物を持って立って待っているお年寄りを見かけることがあります。お年寄りや障害のある方が利用する交通手段ですので、バス停には椅子を設置する必要があると思います。こうした小さなことから市民の本当のニーズに対応していくことが大切だと思います。
- ・また、バス停とごみの集積場が一緒になっている箇所があって、カラス除けネットでおおわれているごみの近くでお年寄りがバスを待っているような光景も見かけます。こうした現場の状況に目を向けていかないと市民のニーズに合った計画になっていかないのではないかと感じます。

松岡委員

- ・新聞記事によると岐阜市では、コンビニエンスストア内にバスの待合ができるようなスペースを設けるような取組を行っています。買い物難民問題と高齢者の移動問題の双方を解決する事例です。こうした取組を行っていくことも必要だと思います。
- ・行きたいところに行けるということが人として生きがいをもって生活をしていく上で大切です。企業やお店と連携しながら、買い物難民問題と高齢者の移動問題の解決に向けて検討していただきたいと思います。

事務局

- ・色々のご意見ありがとうございます。高齢者をはじめとした移動支援は多くの課題を抱えています。高齢者等の移動支援については、第4次計画でも位置づけてきましたが、第5次計画においても位置づけるべく、皆様とともに検討してまいりたいと思いますので、よろしく願いいたします。

神谷会長

- ・ありがとうございました。最後に長岩先生からご助言をいただきたいと思います。

長岩助言者

- ・先ほど話題になった重層ですが、「断らない相談」がポイントになります。相談に行ったけどたらい回しにされたとか、担当がはっきりしないとか、担当はいるけど部署の人員体制が手薄で取り扱ってもらえなかったとか、そうした問題が全国あちらこちらで実態としてあったことから「断らない相談」というのが掲げられたわけです。
- ・それから、多機関協働事業とありますが、少し前までは多職種連携とか、多職種協働と言われていましたが、一人ひとりの専門家がつながるといふことにとどまっていはいけない、組織としてつながっていかなくてはならないといふことで、多職種から多機関という表現になったわけです。ちょっとした言葉の違いではありますが、大分意味合いは違います。
- ・例えば、8050問題のように一つの家庭の中に複数の要支援者がいる、さらに極端な例だと要介護のお母さんがいて、息子が知的障害で、その妹は仕事が続き生活困窮になっているような家庭もみられます。全員が障害者であれば、障害福祉の部署だけで対応できますが、こうした、高齢者、障害者、児童といった複数分野の支援が必要な複数の要支援者がいる家庭に対しては、個人個人を縦割的に支援しているだけではうまくいきません。個別毎の支援も必要ですが、世帯単位で援助しなくてはなりません。だから多機関協働が必要なのです。
- ・先ほどご質問のあったアウトリーチの件ですが、断らない相談窓口はあってもそこに来ない人がたくさんいます。情報がなくて来られない人もいれば、支援を受けたくないという人もいます。なので、こちらから出向いて行ってSOSを出さない人も放っておかないようにしていく必要があります。そこで、アウトリーチという言葉も国も言い出しているといふこともご理解ください。
- ・資料1のp26の結果をみると、60%の事業所が担当分野以外の困りごとを把握した際に、「他の相談支援機関等につないだ・つなごうとしている」と回答していますが、本当につないでいるのかは疑問があります。つないだとしても、「後はそちらの機関でやってね」といふことになっていて、多機関協働が本当はできていないのではないかと気がなります。このようなことが実際はうまくいっていないので、多機関協働が必要だと国は言っているわけです。
- ・重層についても、地域共生社会についても、地域包括ケアシステムについても国がモデルをつくってやればうまくいくというものではありません。それぞれの地域によって実情が異なるので、それぞれの自治体で考えていく必要があります。なので、委員の皆様も先ほど説明のあったアンケート結果でも、「結果はこうなっているけど、実際はこうではないか」といふことをどんどん指摘していただければよいと思います。
- ・アンケート結果に少し触れると、p3の「地域で福祉活動している」は2.4ポイント低下していたり、p8の「近所づきあいの程度」も6.4ポイント低下したりしていますが、悲観的になるような結果ではないと思いました。安城市は地区社協や町内福祉委員会の活動があるからこの程度の低下でとどまっているのではないかと感じました。
- ・p4～p7にかけては福祉に関する情報入手の状況の結果が示されていますが、そもそも今何ともない方は福祉に関する情報は求めないので、必要になった時に福祉に関する情報が得られるようにするような仕組みや仕掛けがポイントであると思います。相談のルートがしっかりしていることが評価のポイントであると思います。

- ・豊田市では、高齢者に関する相談は地域包括支援センターで受け止めていくという方針にあり、そのために地域包括支援センターの認知度を高めていくためのアピールを行政も現場もしていくという方針をしっかりとっています。
- ・p 8～p 12あたりで近所付き合いの状況についての結果が示されていますが、近所付き合いが濃くなる要素は全国的にもありません。プライバシー最優先という社会風潮がありますが、近所付き合いや地域の助け合いを進めていこうとするなら、プライバシーとの折り合いをつけていかなければならないと思いました。
- ・p 14のご近所で生活課題を抱えた人を見聞きしたことの有無について尋ねていますが、トップは、「認知症の人」ですね。一方、p 17をみると、実際に関わっている地域福祉活動のトップは「防火・防災」となっています。この結果からみると、市民の皆さんが比較的関心を持っていてとっかかりやすいのは、認知症のサポートと防火・防災、災害時の対応だと思えます。
- ・発達障害のお子さんや外国人などを排除するのではなく、受け入れていく寛容性のある地域社会をつくっていくことが、地域福祉計画の最大テーマであり、そこに軸足を置いていかなければいけないと思います。精神科医の和田秀樹さん「ボケの壁」という新書を出され年明けに少し流行りましたが、和田さんが言うには、認知症はいきなり進むわけではないし、手が付けられなくなるほど重度化する病気でもない。だから大げさに捉えすぎると、寛容性を失ってしまうので、もう少しおおらかに捉えていくのが良いのであろうと思います。

(2) 次回以降の開催予定等について

事務局

- ・ありがとうございました。それでは、4. その他の「(2) 次回以降の開催予定について」に進みたいと思います。
- ・次回は、令和5年7月6日木曜日の開催となります。会場もこの場所となっております。お忙しい中ではありますが、ご出席をお願いいたします。また、令和5年度の協議会は計4回の開催となります。皆様のご協力をお願い申し上げます。
- ・それでは、これもちまして第2回安城市地域福祉計画策定協議会を終了とさせていただきます。委員の皆様におかれましては長時間にわたり大変ありがとうございました。

以上